

第65期 株主通信

2015年1月1日→2015年12月31日

最先端のカスタマイズ・ ボトル・ファクトリーへ

TAKEMOTOは既製ボトルで
お客様のモノづくりのお手伝いをします。

証券コード: 4248



トップメッセージ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

竹本容器は、2014年12月17日に東京証券取引所市場第二部に上場しました。昨年は上場会社として初めての1年となりましたが、公表した事業計画を実現するために行動した1年でもありました。

代表取締役社長 竹本 笑子

トップインタビュー

Question

1

今期の業績はどうでしたか

政府の経済政策や日銀の金融政策を背景として、昨年から引き続き緩やかな景気回復基調で推移しましたが、年後半にかけては原油価格の低下や中国を始めとしたアジア地域の景気減速感など、世界的な不確実性も顕在化しつつ推移してまいりました。

当社グループにおいては、日本国内では外国人旅行者によるいわゆる爆買いによる需要増加の影響もあり、当連結会計年度の売上高は122億21

百万円（前期比10.5%増）となりました。

利益面ではプラスチック原材料価格の低下と中国における生産効率化への取組の成果による原価低減、金型投資の増加や生産能力増強のための設備投資額の増加はあったものの、日本における固定資産の減価償却方法の変更による当期限りの減価償却負担の低減もあり、連結営業利益は12億50百万円（前期比42.5%増）、連結経常利益は12億75百万円（前期比45.2%増）、連結当期純利益は8億27百万円（前期比42.3%増）となりました。

トップインタビュー

Question

2

カスタムボトル・イノベーションについて教えてください

当社は、開発提案型ボトルパッケージングメーカーとして自社で容器の企画、開発を行い、容器を製造するための金型を自社で保有している、いわゆるスタンダードボトルを軸としてお客様が必要とする容器を必要な数だけ提供する営業活動、並びにお客様が金型投資を行うカスタムボトルの分野では当社スタンダードボトルの開発実績を生かした提案活動を積極的に展開してまいりました。

また、生産面では当社での金型開発を進め2015年12月末のスタンダードボトル用金型数を2,843型とするとともにお客様からの納期要望や製品品質向上に応える生産体制並びに社内検査体制の強化など、総合的な製品供給能力の向上を図る施策を実施してまいりました。

カスタムボトル・イノベーションとは、お客様のオリジナル金型を製作するにあたって、当社が保有するスタンダードボトル金型並びに金型開発能力を活用することで、一般的なカスタムボトルと比較して、低価格、短納期、高品質で新しい製品を提供することを言います。

具体的には、容器を成形するため、すべての構成部品で新しく製作するのではなく、すでに当社が保有している金型を一部分利用する一方で、より独自性を持たせたい箇所や彫刻のみを新たに製作し、これらを組み合わせて成形を行うことで、初期費用を抑え、かつ独自性の高い製品を提供することが可能です。

また、キャップを当社の豊富なラインナップからお選びいただくことで、高額なキャップの初期費用を抑える事が可能です。

特注品ボトルにあわせて、ご要望の付属品をご自由にお使いいただけます。

Question

3

来期の展望について教えてください

当社は、さらに「世界の器文化に貢献」することを基本理念とし、中期目標としては「開発提案型ボトルパッケージングメーカーとして、世界で最も顧客に必要とされ、チャレンジングで活気のある企業になる」ことを目指しています。このための①新製品開発体制の強化、②国内外の生産体制強化並びに安定生産の

確保、③営業力の強化を重要課題としています。

まず、当社が企画開発するスタンダードボトルとお客様独自のカスタムボトルの開発、提供能力を高め、お客様が必要とする包装容器を必要なときに必要なだけ提供できる体制の強化につとめてまいります。具体的には、スタンダードボトル、カスタムボトルを合わせた新規金型開発能力の増強により年間300型超を開発することで製品ラインナップを充実させます。

また、日本国内においては、当社のメイン工場である結城事業所における印刷二次加工棟の完成により、結城印刷所を移転拡張するだけでなく、成形と印刷工程を融合させ工程間の連動を強化しさらなる納期短縮を目指します。さらに東日本大震災により被害を受けた背景から、西日本市場への安定供給を目的として操業を開始した大阪ブロー工場については、今後増加が見込まれる西日本地域の需要に対して生産能力の増強を実現するため、新たに岡山県勝田郡奈義町に工場用地を取得した上で新工場を建設移転することで、同工場の機能を移転拡大することと致しました。

一方、日本と中国における開発提案型営業を引き続き展開するとともに、アメリカおよび昨年9月オランダに設立したTakemoto Netherlands B.V.を拠点としてヨーロッパ各国でのスタンダードボトルの積極展開を行い、海外売上も拡大してまいります。

Question

4

株主の方へ、メッセージをお願いします

当社は開発提案型ボトルパッケージングメーカーであることを特徴として着実かつ強力に世界へと事業展開を行ってまいります。2016年はそのための先行投資の年となりますが、株主の皆様には長期的な展望の中で、当社の成長を応援いただきたいと考えています。

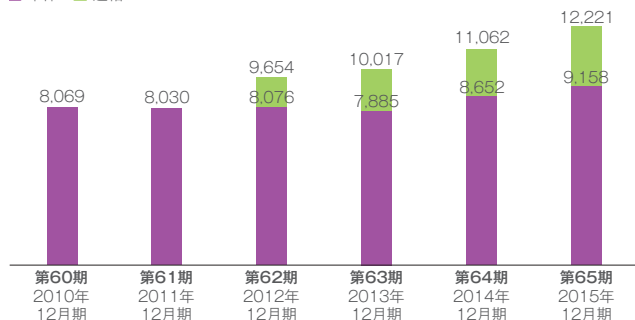
当社は、利益還元策としての配当性向20%を目指していくとともに、積極的な情報開示を行っていく方針であります。

株主の皆様には、変わらぬご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

決算ハイライト

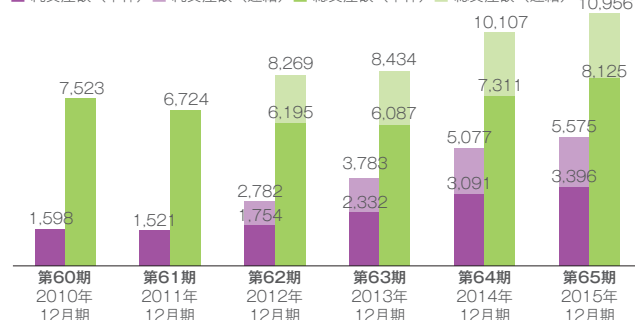
売上高 (単位:百万円)

■ 単体 ■ 連結



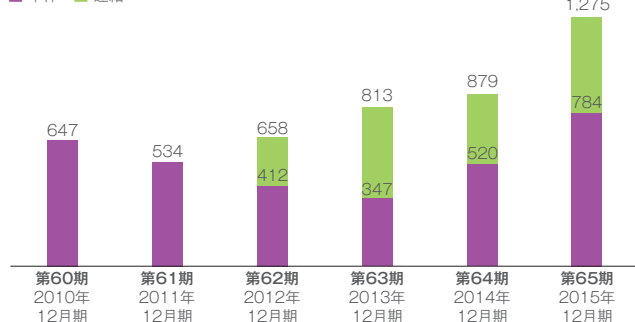
純資産額／総資産額 (単位:百万円)

■ 純資産額 (単体) ■ 純資産額 (連結) ■ 総資産額 (単体) ■ 総資産額 (連結)



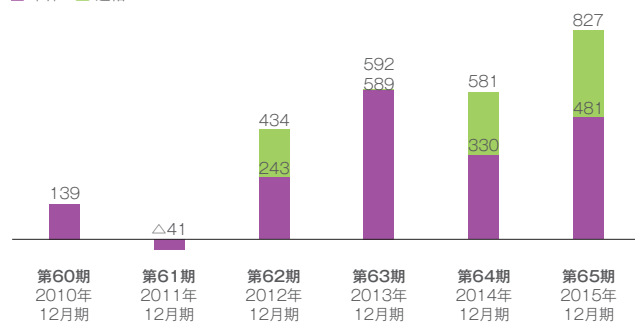
経常利益 (単位:百万円)

■ 単体 ■ 連結



当期純利益又は当期純損失 (単位:百万円)

■ 単体 ■ 連結



(注) 連結決算は第62期より作成しています。

NEW PRODUCT 新製品情報

OPTS-200、OPTS-250

商品としてのデザイン面となるフェイス部分を広めにとり、スクイズしやすい形状の容器。



シェイカーミニ

女性が持ちやすいスリムな形状のシェイカー容器。



KOR-150

既製容器としては珍しい、ろ紙を使ったタイプの容器。芳香剤、脱臭・消臭剤、除菌剤をターゲットとしています。



PEK-500

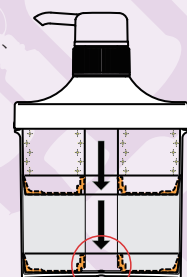
計量機能付き容器で10・20・30・40mlのメモリの付いた計量CAP付きの容器。



高粘度対応 落とし蓋容器

従来品を更なる高粘度の内容物（クリーム等）にも対応できるように改良した容器。

残量：容器内壁への密着性を考慮した形状で作成し、従来品よりも残量が1/2に減少しました。（当社比）



使用感：シリンダーに突起を付けることにより、蓋が取り出しやすくなりました。



2015年9月 Takemoto Netherlands B.V.を設立

2015年9月16日にオランダのノールト・ブラバンド州ヘルモンド市に子会社として「Takemoto Netherlands B.V.」を設立致しました。欧州市場においてスタンダードボトルビジネスを軸とした事業の展開余地はあると見込まれることから、現地での販売と市場調査を行うための拠点として設立したものです。

このヘルモンド市は古くは金属と繊維工業で栄えた街で、オランダの南端に位置し、オランダの首都アムステルダムから車で約2時間の場所にあります。またベルギーとドイツに接しており、欧州諸国への活動の拠点としても適しています。



2016年1月 総合カタログリニューアル

2016年1月に総合カタログをリニューアル致しました。タケモトカラーセクション対応製品を明確にしたことで製品の検索性をさらに向上させました。今回のリニューアルでは掲載している製品写真の大部分について、当社の3Dビジュアライザーシステムを使用して作成し、カスタマイズをイメージしやすいように致しました。

この3Dビジュアライザーシステムは当社ホームページ上において、お客様が使用することができます。

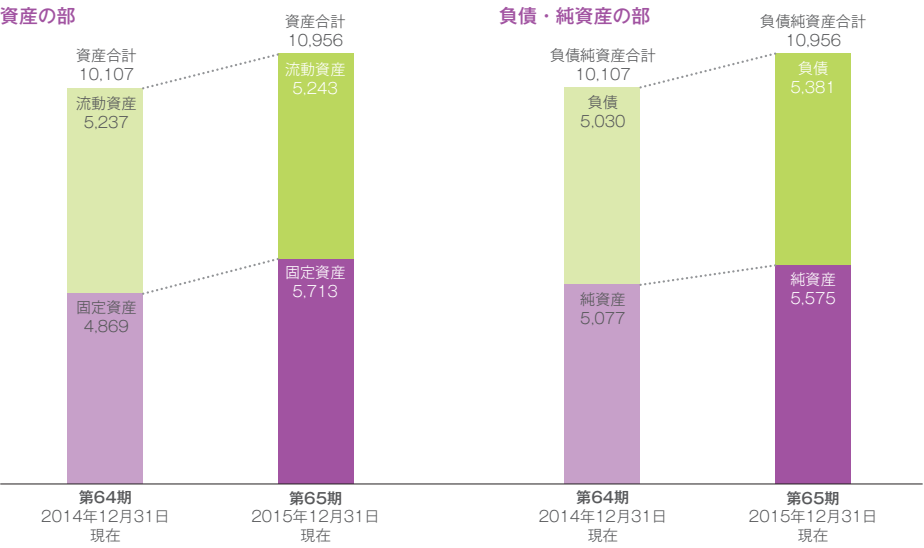
※3Dビジュアライザーシステム とは
容器の3次元画像を用いて、着色や印刷などのイメージするデザイン画像を制作することができる3次元立体シミュレーションシステムです。

当社ホームページには製品の検索システムがありますが、今後、日本製品の英語版カタログ作成、中国製品のカatalogリニューアルを予定しております。また、お客様の利便性を向上させる為に各カタログのデジタルカタログの作成も進めてまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)



POINT

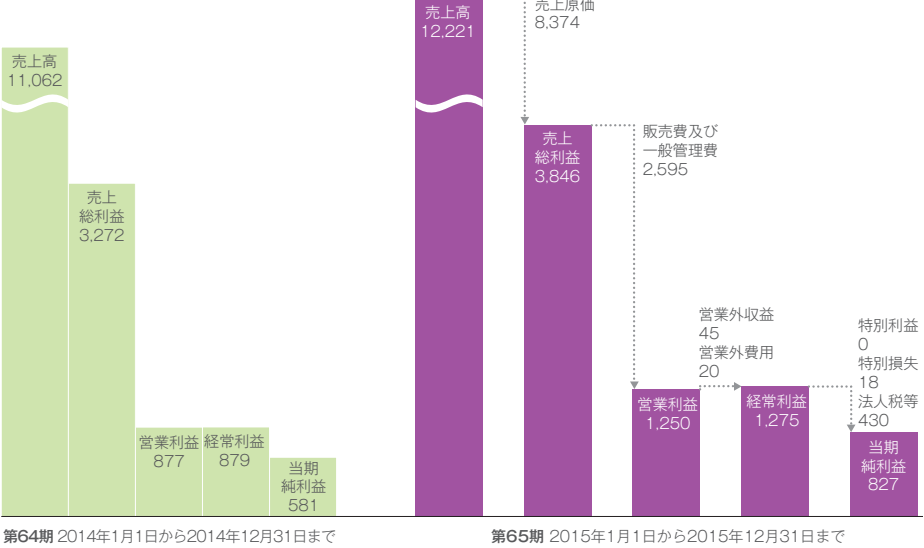
流動資産は、現金及び預金が4億94百万円減少し、一方で、受取手形及び売掛金が3億58百万円増加したことなどから、52億43百万円となりました。

固定資産は、昨年4月にジェイ・トム事業所新工場が竣工したことなどから、57億13百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金が3億4百万円増加したことなどから、53億81百万円となりました。

純資産は、当期純利益計上による増加から、中間配当並びに為替換算調整勘定の減少などを差し引き、4億98百万円増加したことから55億75百万円となりました。

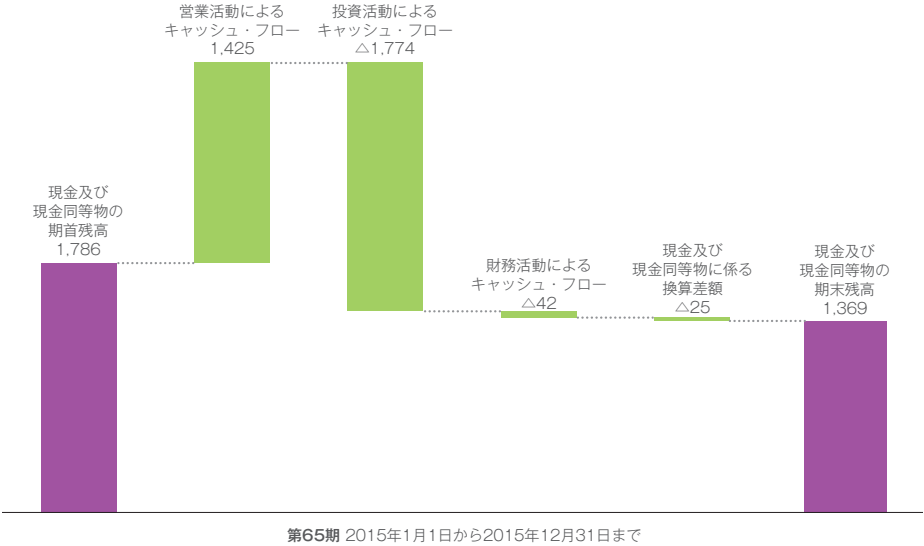
連結損益計算書 (単位:百万円)



POINT

当連結会計年度の売上高は122億21百万円となりました。日本国内、中国ともにスタンダードボトルを軸とした営業活動に加え、お客様が金型投資を行うカスタムボトルの分野でも提案活動を積極的に展開し、売上高は順調に推移しました。また、プラスチック原材料価格の低下と中国における生産効率化への取組の成果による原価低減などから売上高総利益率が上昇いたしました。この結果、営業利益は12億50百万円、経常利益は12億75百万円、当期純利益は8億27百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益12億57百万円、減価償却費6億38百万円などの収入から、法人税等の支払額が3億89百万円あったことなどから、14億25百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出18億20百万円により、17億74百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の純増額により1億34百万円の収入、一方で配当金の支払1億76百万円などにより42百万円の支出となりました。

会社概要／株式の状況 (2015年12月31日現在)

会社概要

商 号 竹本容器株式会社
Takemoto Yohki Co., Ltd.
代 表 竹本 笑子
設 立 1953年5月19日
所 在 地 〒111-0035
東京都台東区西浅草一丁目5番15号
資 本 金 3億3,205万9,375円
事業内容 プラスチック製の包装容器の製造及び販売

役員 (2016年3月29日現在)

代表取締役社長 竹本 笑子
常 務 取 締 役 深澤 隆弘
取 締 役 丸山 正基
竹本 えつこ
戸田 琢哉
監査等委員(社外) 穴田 信次
田中 達也
石川 雅郎
二宮 洋

※当社は監査等委員会設置会社へ2016年3月29日をもって移行しました。

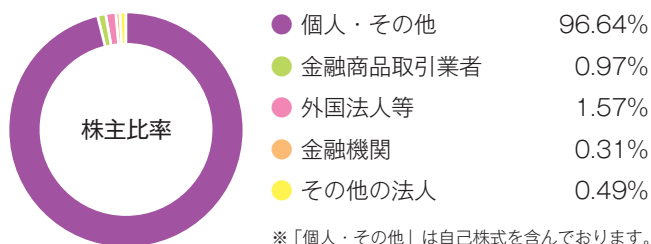
株式情報

発行可能株式総数 20,498,800株
発行済株式の総数 5,682,200株
株 主 数 1,849名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数 (株)	議決権比率 (%)
竹本 笑子	1,685,000	29.65
若竹持株会	442,900	7.79
竹本 雅英	390,000	6.86
竹本 えつこ	305,000	5.37
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	292,300	5.14
深澤 隆弘	265,100	4.67
竹本 力	227,000	3.99
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社 (信託口)	193,300	3.40
深澤 英里子	110,000	1.94
山本 健人	103,000	1.81

株式分布状況



事業拠点

日本で販売する製品は、一部を除き、日本国内の自社工場（6工場）及び協力メーカーで生産されています。中国、アメリカで販売する製品は、主に、上海竹本容器包装有限公司、竹本容器（昆山）有限公司で生産されています。



株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
期末配当金受領
株主確定日 12月31日
定時株主総会 毎事業年度の末日翌日から3ヶ月以内
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
(同連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
公告の方法 当会社の公告方法は、電子公告としております。電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下のとおりです。
<http://www.takemotokk.co.jp>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。